

修士課程日本音楽研究専攻は、平成 30 年度現在、5 人の修士学生が在籍しています。学生の研究の対象は、徳島の稚児舞、新内節伝承の現在、祇園祭函谷鉾の囃子、女性の能謡の実践、日中の琴楽古譜など多種多様です。

本専攻生は、日々の演習授業やインターンシップ活動、フィールドワークを通じて培い、また、伝音セミナーや公開講座など伝音センター各種催しに企画・講師・パネリストとして携わることで、研究だけでなくその成果を一般市民に還元する方法を学んでいます。

今年度は修了予定者 2 名が、市民向け講座「伝音セミナー」の講師をつとめました。両者とも講演のみならず、三味線実演や自作曲の初演をもちこんだ充実した内容で来場者の好評を得ました。



細野桜子 新内節にふれる一前弾きの諸相と蘭蝶 (2018 年 12 月 20 日)



細野 桜子 (右) 同 新内志賀師をゲストに招いての《蘭蝶》演奏



廖婉婷 京の都に捧げる音 — 祇園囃子の調査とそれにもとづいた創作 (2018年12月23日)



廖婉婷 同リコーダーと電子音のための《Summer Landscape》



伝音セミナー終了後の恒例ピザパーティー